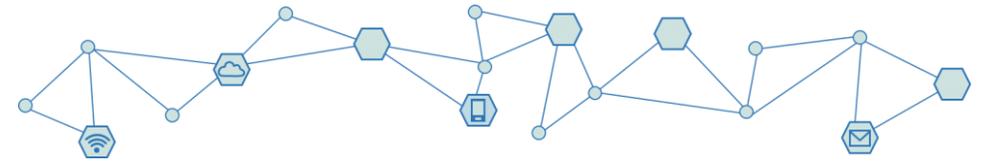
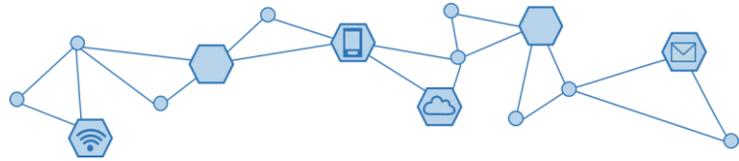


# やまがた県民幸せDXビジョン

## 概要版



令和8年3月  
山形県

# 1 策定趣旨

- 本県では令和3年3月に「Yamagata幸せデジタル化構想」を策定し、**県民の幸せを中心に据えたデジタル化を目指し**、あらゆる分野でのデジタル施策を進めてきた。
- これまでの取り組みで一定の成果が見られるものの、**本県を取り巻く人口減少・少子高齢化に起因する複雑な課題を解決・軽減し、県民一人ひとりが幸せを実感できる持続可能な社会を実現するためには**、デジタルを最大限に活用し、社会変革を促す「**デジタルトランスフォーメーション(DX)**」の**重点的な推進**が必要である。

今後のデジタル施策の意義や展開の方向性を明確化し、**県民や事業者、市町村等と共有することが重要**であることから、現行構想をアップデートする。

県民の幸せを中心に据える基本理念は継承しつつ、多様な主体とDXにより目指す姿（ビジョン）を共有する観点から、「**やまがた県民幸せDXビジョン**」に改称。

【期間】令和8年度～令和11年度

# 2 デジタルを巡る状況

## (1) 社会基盤としてのデジタル領域の急速な拡大

### ①社会生活におけるデジタルの浸透・拡大

- ・ ネット接続端末は高齢者層を含めスマートフォンへ移行、LINEやX、InstagramなどのSNSは全世代に拡大

### ②企業活動におけるデジタルの浸透・拡大

- ・ 全国の企業のクラウドサービス利用率は80.6%(R6)と10年で倍増

### ③行政機関の業務におけるデジタルの浸透・拡大

- ・ 本県のマイナンバーカードの普及率は84.6%(R8.2月末時点)と**全国6位**、健康保険証や運転免許証との一体化も進み、新たな社会インフラとして発展

## (2) AIの爆発的な進展

### ①生成AIの急速普及

- ・ AI市場は2030年に8,267億ドルまで拡大と予測
- ・ 特に文章、画像、動画等を生成する、いわゆる生成AIが急速に進化、普及

### ②AIエージェントの成長

- ・ 人に代わって業務を行うAIエージェントの開発も加速

## (3) 政府の動向

### ①デジタル社会の実現に向けた重点計画(デジタル庁)

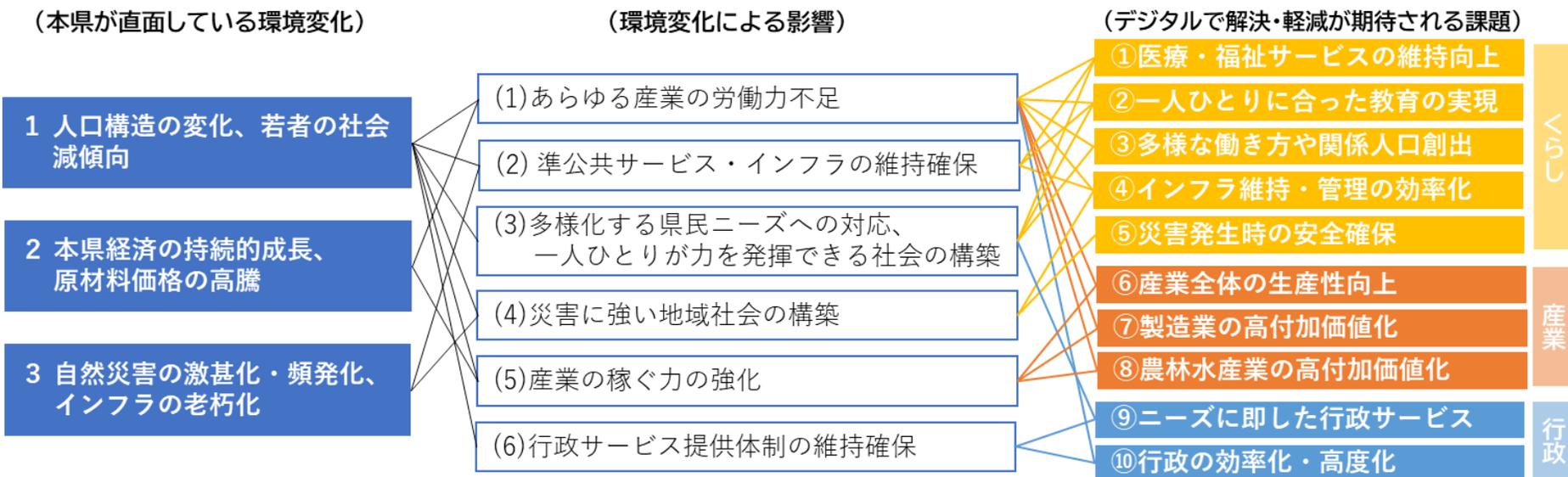
- ・ AI・デジタル技術等のテクノロジーの徹底活用

### ②自治体DX推進計画(総務省)

- ・ 自治体情報システムの標準化・共通化など自治体DXや地域社会のDXを推進
- ・ 都道府県は市町村支援に取り組む

### 3 本県の現状・課題

#### (1) 本県を取り巻く社会課題の整理



#### (2) DXに取り組む上での課題

- 県内企業の約6割がDXに関する知識不足やDX人材確保を課題とし、全国調査ではアナログな文化・価値観が障壁との声も。
- 県内市町村は、約9割がDXに必要な財源確保と人材の育成・確保を課題とし、行政手続きのオンライン化を最大の住民ニーズと捉えている。

### 4 本県のこれまでのデジタル化の取組みと評価

#### (1) 主な成果 (R3~R6)

- ・ オンライン診療のモデル事業が進展
- ・ AIマッチングシステムによりお見合い件数が増加
- ・ 交通系ICカード導入により地域交通が利便性向上
- ・ 公金収納のキャッシュレス決済が拡大
- ・ 衛星リモートセンシングの活用により水稻の高品質化
- ・ 県立学校の授業等でのICT活用が進展

#### (2) これまでの取組みの評価

- ① 分野ごとのデジタル化は一定の進展
- ② デジタル化の恩恵を十分受けられていない県民層がいる
- ③ DXが進んでいる主体とそうでない主体が二極化
- ④ デジタル化の進展とともにデジタル人材不足が深刻化

デジタル技術の導入は一定の進展、今後は各分野・世代への社会実装と仕事・生活を変える社会変革を推進  
➔ デジタル導入期から、社会変革に向けた挑戦期へ

# 5 基本方針

## (1) 県民幸せDXの理念

○ 県民の幸せを中心に据える基本理念は前構想を継承しつつ、進展するデジタル技術を最大限活用し社会変革を促す「**デジタルトランスフォーメーション(DX)**」に重点化。

## (3) 施策の分野

○ 施策の柱を20分野に細分化し、分野別にもビジョンを設定。

## (4) 行動指針

○ デジタル施策の推進にあたり県の組織全体で共有すべき基本的な考え方や留意事項として設定。

### 県民幸せDXの理念

子どもから高齢者まで、誰もがデジタル化の恩恵を受けられる、  
**県民の『幸せ』を中心に据えたデジタルトランスフォーメーション(DX)**

### 目指す姿(ビジョン)

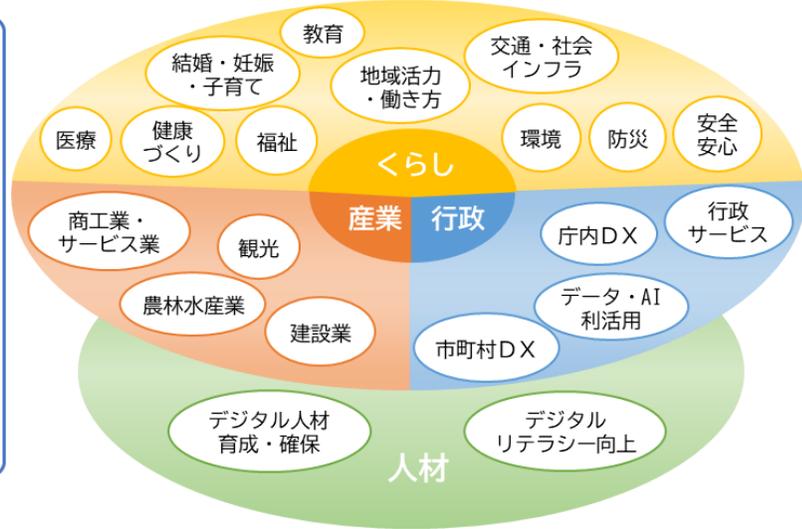
※ビジョンは 概ね10年後を想定

- くらし** デジタルの力で誰もが安心して住むことができ、県民一人ひとりが活躍し、若い世代にも選ばれる持続可能なくらしの実現
- 産業** デジタルを活用した生産性向上や業務効率化による持続可能で高付加価値な産業の実現
- 行政** 県や市町村のDXにより利便性が向上し、県民視点に立ったサービスを提供する行政の実現
- 人材** やまがたの未来を創るデジタル人材が育ち、社会全体のDXが実現

### 行動指針

- ① 利用者目線のサービスデザインの徹底
- ② 変化に柔軟で迅速なデジタル施策の推進
- ③ 多様な主体との共創の実践
- ④ 現場視点のデジタル活用推進
- ⑤ データとAIの徹底活用

### 施策の分野



### シンボリックプロジェクト

- ① 遠隔医療による医療体制の強化
- ② 災害情報提供や避難所運営支援
- ③ 学校教育でのAI活用、遠隔教育
- ④ 移住・定住促進、関係人口創出
- ⑤ 製造業の「稼ぐ力」維持向上
- ⑥ スマート農業技術の普及推進
- ⑦ 県と市町村が連携した地域DX

## (2) 施策の柱と目指す姿(ビジョン)

○ 本県が直面する社会課題に対応した取組み分野を4つの「**施策の柱**」に設定。

○ 行政はじめ県民、関係者等が一丸となってDXに取り組むために共有できる、概ね10年後を見据えた目指す姿(ビジョン)を「**施策の柱**」毎に設定。

## (5) シンボリックプロジェクト

○ ビジョン実現の寄与度が大きい施策を各分野から選定、重点的に取り組む。

○ 急速な社会変化に対応するため、短期目標(2年間)を設定し、俊敏に推進。

# 6 シンボリックプロジェクト

## (1) 医療：遠隔医療による地域医療提供体制の強化

### 現状・課題

- 本県の10万人当たり医師数は依然として全国平均を下回る状況、地域の偏在も課題。
- 産科・小児科等の特定診療科の医師不足も深刻な状況、診療科による医師の偏在も大きな課題。
- 質の高い医療を提供し続けるためには、デジタル技術を有効に活用していくことが重要。

### 取組みの内容

- へき地診療所等を受診する患者が、病院にいる医師からオンライン診療を受けるモデル事業等を実施し、効果や課題を検証
- 平時からオンライン診療を実施する体制の整備を目的として、災害発生時等、有事も見据えたモデル事業を実施

### 短期目標

- ① モデル事業終了後の自走化。
- ② へき地診療所での事業も含め、オンライン診療の手法や事例をまとめ、HPなどを通じて県内医療機関向けに周知されている。

各年度の数値目標	直近の数値	R8年度	R9年度
当該モデル事業区域において平時からオンライン診療を行う福祉施設等の箇所数(延べ)	1か所	2か所	2か所

### ポイント

災害時も想定したオンライン診療モデルの普及・拡大により、**レジリエンスの高い医療体制の構築へ**

災害時を想定した  
オンライン診療  
モデル事業



## (2) 防災：災害関連情報の適時適切な提供や避難所運営の支援

### 現状・課題

- 市町村単位での災害・避難情報しか届かず、自身の行動につながりにくい。
- 紙への記入による避難所受付がほとんどであり、時間と手間がかかっている。
- 職員は避難指示、避難所運営など業務が多岐に渡り、避難者情報一元管理やマンパワー不足等が課題。

### 取組みの内容

- 対象住民を細分化した情報の送受信、避難所のデジタル受付、避難者情報の一元管理に関する避難所運営支援システム(防災アプリ)を県と市町村が共同で導入・運用
- 視覚障がい者や外国人の方々などの災害発生時の適切な避難行動につなげるため、ハザードマップの内容や気象情報、避難情報を、音声(多言語)で提供

### ポイント

県民一人ひとりに合った情報提供による**県民の適切な避難行動**や、自治体側の緊急性の高い**災害応急対策への注力**が可能に

やまがた安心ポータル「やまもり」



### 短期目標

- ① 発災時、避難者の情報を管理、可視化することで、より迅速かつ適切な支援を実現し、災害関連死が防止されている。

各年度の数値目標	直近の数値	R8	R9
災害関連死による死者数(人)	0	0	0
アプリダウンロード数(件)	0	50,000	100,000

# 6 シンボリックプロジェクト

## (3) 教育：

学校教育でのAIの活用や遠隔教育等による一人ひとりに合わせた学びの推進

### 現状・課題

- ・学校間、教員間で生成AI活用に差が生じている。
- ・入学動機や進路の希望など様々な背景を持つ生徒が在籍し、学校内での児童生徒の多様化が進行。

生成AIの活用推進と普及

遠隔授業による多様な学びの保障

### 取組み例

- 生成AIパイロット校による、授業及び校務での生成AI活用における先進的な事例の創出と発信
- 県内4地区に「生成AI活用推進重点校」を設置し、民間事業者の支援による活用の促進と地区内の学校への好事例の共有

- 遠隔授業配信拠点に遠隔専門教員を配置し小規模校において習熟度別授業を実施
- 教科「情報」等、専門性の高い科目を遠隔授業で配信し、情報分野を支える人材の育成
- 資格取得や進学対策講習等を遠隔で実施することにより新たな学習機会を提供

### ポイント

- ・全県での**生成AI活用のレベルアップ**へ
- ・**習熟度別授業**が受けられる小規模校が増加

### 短期目標

- ① 生成AIを活用し生徒は個に応じた学びが充実、教員は授業の準備等で効率化。
- ② 遠隔授業の手法等が確立され、小規模校での習熟度別授業が定着。長期休業中における講習会の学校の枠を超えた学びの環境が拡大。

各年度の 数値目標	直近	R8	R9
生成AI推進重点校数	—	4校	4校
遠隔授業受信校数	2校	5校	5校

## (4) 地域活力・働き方：

若い世代に選ばれる移住・定住促進、関係人口創出

### 現状・課題

- ・移住相談が多岐に渡り、相談員が高度かつ個別性の高い相談支援に注力できる体制が必要。
- ・移住への関心度を高めていくため、気軽に相談できるツールが必要。
- ・移住交流ポータルサイトから利用者が知りたい情報に案内する仕組みが必要。

### 取組みの内容

- ・移住交流ポータルサイトに対話型AIチャットボットを導入し、24時間365日、利用者の質問に即時対応できる体制を整備。
- ・AIにより「どんな暮らしをしたいか」会話ベースで最適な情報を案内。
- ・問い合わせログを分析し、利用者が求めている情報を把握して、サイト改善や施策立案に活用。

### ポイント

個別性の高い対面相談に注力可能に



### 短期目標

- ①対話型AIチャットボットが移住希望者の情報収集を効果的に支援。
- ②対話型AIチャットボットを介したやまがた暮らし・しごとサポートセンター等への相談予約が累次的に増加。

- ③相談員がオンライン相談会やイベントに注力し、質の高い相談機会を提供。
- ④利用者（年代・関心分野）ごとの傾向を把握し、移住施策のPDCAを早める仕組みを整備。

数値目標	直近の数値	R8年度	R9年度
AIチャットボットの利用者数	—	— (実装予定)	HP利用者の3割

# 6 シンボリックプロジェクト

## (5) 商工業・サービス業： デジタル技術等を活用した県内製造業の「稼ぐ力」の維持・向上

### 現状・課題

- きめ細やかな企業訪問等の取組みにより、DXに着手する企業は増えてきたものの、依然としてDXに取り組んでいない企業も多い。
- DXに着手した企業についても、人材や情報、資金など経営資源が限られている中、単独でDXに取り組む状態まで至る企業はまだ少ない。

### 取組みの内容

- デジタル技術活用の好事例の横展開や、IoTシステム導入等による自動化・省力化を推進することで生産性向上を図るとともに、IoTシステムにより得られるデータの分析・活用により客観視した自社の強み・弱み等を踏まえ製造業者が行う新たな価値の創出を伴走型で技術支援する。

#### ポイント

- 各企業のDXへの**取組段階**に応じた支援施策の再構築
1. デジタル技術の好事例の横展開等による**普及啓発**
  2. 自動化・省力化の促進による**生産性向上**
  3. AI・データ等の高度利用による**新たな価値創出**

### 短期目標

- ① 県内の製造業者の多くがデジタル技術活用の取組みを進めている。
- ② IoT等の活用による自動化・省力化の取組みが県内製造業者に広がり始めている。
- ③ デジタル技術を活用して新たな価値を生み出す製造業者が創出されている。

各年度の数値目標	直近の数値	R8年度	R9年度
DXに取り組む製造業者の割合	62%	70%	75%
支援ツールを導入する製造業者	年4社	年4社増加	年4社増加
新たな価値を創出する製造業者	-	年2社増加	年2社増加

## (6) 農林水産業： スマート農業の推進や新たな技術の開発・導入による生産性の向上と農地利用の効率化

### 現状・課題

- 生産者の高齢化や減少、経営体の大規模化が進む中で生産力を維持していくためには、スマート農業技術の導入を推進し、生産性の向上が必要。
- 果樹経営において、規模拡大のためには作業の効率化が必須であり、スマート農業技術の活用・導入が課題。
- スマート農業機械は高価な機種が多く導入が難しいことから、作業委託等でスマート農業技術を享受できる仕組みも必要。

### 取組みの内容

- 経営体の生産性を高めるため、スマート農業技術の開発・実証やスマート農機等の展示等を通して、技術の最適化を行うとともに、技術導入を促進する。
  - 水稻生育管理システムの実証
  - 果樹農業を支えるスマート農業技術の開発・実証
  - 衛星データを活用した農地の集積・集約化の促進

#### ポイント

スマート農業技術の最適化により、高品質な農産物の安定生産へ



衛星情報を活用した水稻生育管理

### 短期目標

- ① スマート農業技術の導入により省力化とデータに基づく効率的な生産管理が進み、高品質な農産物の安定生産につながっている。

各年度の数値目標	直近の数値	R8年度	R9年度
スマート農業技術の延べ導入技術数	3,404 (R6年度)	4,700	5,400

# 6 シンボリックプロジェクト

## (7) 市町村DX、デジタル人材育成・確保： 県・市町村の連携体制構築による地域DXの推進

### 背景

市町村職員数の減少や求められる行政ニーズの多様化に対応するには、市町村DXの推進が必要

### 課題

- ・ 職員の意識醸成と市町村交流による人材育成
- ・ 市町村に寄り添った外部デジタル人材の活用
- ・ 広域での市町村DXの推進



市町村DX担当者向け勉強会の様子

### 取組みの内容

- ・ 市町村担当者間で円滑に情報共有できるデジタルコミュニティの形成
- ・ 外部人材と県職員によるハイブリッド型の支援体制を構築
- ・ 複数の市町村に共通するDXの課題をテーマ化し、解決に向けた協働プロジェクトの実施

### ポイント

- ・ 市町村間交流によるナレッジ共有を通じた**デジタル人材育成**
- ・ ハイブリッド型による**行政現場に馴染む**支援の提供
- ・ 協働プロジェクトによる**課題解決の効率化**

### 短期目標

- ① 人材育成や外部デジタル人材の活用、広域での市町村DX推進に係る市町村支援体制の手法を確立する。
- ② 協働プロジェクト実施により、市町村共通の課題解決につなげる。

各年度の数値目標	直近の数値	R8年度	R9年度
協働プロジェクトの実施数	—	2 (+2)	4 (+2)
共同調達したツール・システム数	3 (R7.9現在)	4 (+1)	6 (+2)

# Column 県民幸せDX最前線



## 事例1 山形県・酒田市病院機構（酒田市）

- ・ 中山間地域で移動手段がない受診困難患者の元にアウトリーチする**医療MaaS**（Mobility as a Service）を実践
- ・ コミュニティセンターにおいて診療カー車内での**特定多数人向けのオンライン診療**を実施、診療カーには看護師が同乗しサポート



軽自動車のキャンピングカーを改造



医師は病院で外来診療の合間に診療できる

## 事例2 おしの農場（天童市）

- ・ ドローンや自動操舵トラクター導入のほか圃場生産管理システムによりスマート農業を推進し**作業を見える化**
- ・ 熟練の勘と経験に頼りがちな作業から脱却し客観的データに基づく生産管理を行うことで**女性や若い社員が活躍**



圃場生産管理システムの活用



ドローンによる農薬散布



農業の魅力をSNSで情報発信